

大塚陽介

循環器内科レジデント平成18年 佐賀医科大学卒

はじめまして。私は長崎医療センター 循環器内科に現在勤務している大塚 陽介といいます。佐賀大学で2年間の初期研修の後に、自身の故郷でもある大村の当院で後期研修を3年間行いました。

長崎医療センターの後期研修の魅力は、風邪、高血圧などといったありふれた病気から、腎移植や心疾患に対する左室形成術といった各科の高度専門領域まで、主治医として接することができる、総合力にあると思います。

私は後期研修の始めの1年間で総合診療科、呼吸器、消化器、腎臓内科とローテーションした後に、2年間を循環器内科で過ごしました。各科のローテーション中は、それこそ軽症から重症まで、ありふれた病気から高度専門領域まで、様々な症例を朝から晩まで濃密に経験させて頂きました。

血液培養から *S.maltophilia* が検出された重症の COPD 急性増悪への抗生素治療、脳幹梗塞で呼吸停止を来たした脳梗塞例への治療、重症の心筋梗塞に PCPS を自分で導入し一週間泊まり込んで治療を行い、結果、歩いて退院された症例など、思い返すと、主治医として様々なことを経験させて頂きました。中々帰れない、拘束の電話が鳴り続ける日もありましたが、思い返すと、それらの最もきつかった日々こそが、医師としての基本的な診断力、判断力が最もついたように思います。あの日々に感謝、です。

その中で、挿管、中心静脈確保、トロッカー、気管支鏡、内視鏡、透析、その他 etc と、手技は何回施行したか記憶していないほど、無数に経験させて頂きました。循環器科では初年度に冠動脈造影を 250-300 例/年ほど、術者として行い、現在も経皮的冠動脈形成術、ペースメーカー、植え込み型除細動器など術者として修行中です。

循環器内科では後期研修後に、同じ国立病院機構内の国立循環器病センターへ後期研修医が終了した先輩方は勉強に出られており、その点も非常に良いと思っています。

昔からスーパーローテーションを行ってきた病院だけに、各科の上級医も指導好き、教え好きといった先生方がそろっており、院内での勉強会などもとても参加しきれないと、充実している点も非常に勉強になった思います。

また初期研修医、後期研修医の同期のモチベーションの高さも、非常に励みになりました。

研修医室、医局に行くと、夜中までいつも誰かが残って勉強などしており、負けられない、いつも良い意味での刺激を受けていました。

忙しい病院です。しかし、同期と一緒に駆け抜ける、その忙しさは後期研修の数年間で一気に力をつける環境として素晴らしいものがあると思います。今後、皆さんのが後

期研修医として、当院に来られ、一緒に切磋琢磨することができるのを楽しみにしています。